

社会福祉法人 山形県社会福祉事業団広報誌

がさぐるま

ひと 未来 輝いて

2016 MAY
NO. 96



紅花染め巾着袋・ポケットティッシュケース・箸袋など
(ワークショップ明星園にて製作・販売中)

特集

●山形県社会福祉事業団 百年の計

トピックス

- 山形県社会福祉事業団の人材育成
- 日本財団2015年度福祉車両助成事業による助成
- 障がい者チャレンジフェスタ2015
- 各施設の取り組み
- 寿海荘を巡る

山形県社会福祉事業団 百年の計

～県立障がい者施設の移譲を受けて～

この春、山形県社会福祉事業団は、新たな歴史への一步を踏み出しました。
 平成28年4月、山形県から県立障がい者6施設が移譲されましたが、これまでと何が変わり、事業団は何を目指していくのでしょうか。
 今回の特集では、「県立障がい者施設の移譲」を契機に、その概要についてお知らせします。

1 県立障がい者施設等見直し方針の提示と工程表の策定

平成26年6月に県立障がい者施設等見直し方針が示されました。その中で県立障がい者6施設について、平成28年4月から事業団に移譲することが提示されました。施設毎の見直しと内容は以下のとおりとなっています。

その後、平成27年7月に「県立障がい者施設見直し工程表」が策定され、施設機能の見直しや改築等に関する具体的なスケジュールが示されました。



開所当時（昭和51年）の鶴峰園。多くの思い出が詰まったこの建物も、老朽化に伴い、改築することが決まりました。

これに伴い、移譲予定の6施設において、利用者や保護者の方々に対する説明会が開催され、最初の改築となる鶴峰園と慈丘園については合築することとし、建設予定地である鶴岡市の大山地区の地域住民等への説明会が開催されました。

各施設、順次改築が行われる予定ですが、これを機に、生活環境の大幅な改善が図られるとともに、様々な福祉ニーズにも応えていきたいと考えています。

〔施設毎の見直し内容〕

施設名	施設種別	所在地	建設	入所定員	主な機能の見直し等	施設整備	
梓園	障害者支援施設 (身体障がい者)	米沢市	S48	55	地域移行の推進	全面改築	
鶴峰園	障害者支援施設 (身体障がい者)	鶴岡市	S51	45		・難病等医療的ケアを伴う利用者の受入強化 ・リハビリ訓練機能の強化	全面改築 (最優先) (合築も検討)
慈丘園	障害者支援施設 (知的障がい者)	鶴岡市	S48	65		・要介護高齢障がい者の対応強化 ・強度行動障がい者の受入強化 ・重症心身障がい者の短期入所受入強化	
吹浦荘	障害者支援施設 (知的障がい者)	遊佐町	H5	65		・重度知的障がい者のセーフティーネット機能を維持	
総合コロニー 希望が丘	障害者支援施設 (知的障がい者)	川西町	S49 ~54	350		・要介護高齢障がい者の対応強化 ・強度行動障がい者の受入強化 ・重症心身障がい者の短期入所受入強化	寮の再編に伴う大規模改築
ワークショップ 明星園	障害者支援施設 (身体障がい者)	山形市	H7	通所 40		・リハビリ訓練等日中活動サービスの充実	

2 事業団の対応

当事業団では、平成26年7月に設置した「将来構想に基づく5か年実行計画策定委員会」を中心に次期経営計画の策定作業に着手してきましたが、見直し方針が示されたことを受け、移譲に伴う県からの必要な支援について、先行して検討を重ねました。そして、その結果を理事長に答申し、平成27年10月に「県立障がい者施設の移譲を円滑に進めるための支援について」を県健康福祉部長に要望書として提出しました。

なお、要望書は、改築費用（改築が予定されていない施設の減価償却費相当額を含む）、移譲円滑化支援（自律的経営に向けた激変緩和措置）及び機能強化支援（機能強化のための職員配置・施設改修等）といった3つの柱からまとめられています。

3 次期経営計画の策定

第二期経営計画（計画期間：平成23年度～平成27年度）に続く次期経営計画となる「将来構想に基づく5か年実行計画」の策定にあたっては、策定委員会を中心に、3つの作業部会やワーキンググループを設置して、約2年にわたり検討を重ねてきました。また、各施設の意見を反映させるため、施設での説明会等を積極的に行いながら、全ての職員が参画する形で計画を作り上げました。

平成27年12月には、「計画案」が理事長に答申され、平成28年3月の評議員会、理事会において次期経営計画として承認されました。

この計画には、「特性を活かした事業展開と福祉ニーズへの対応」「財務基盤の確立と自律的な経営体質への転換」「組織マネジメントの強化と働きがいのある職場づくりの推進」「人材の安定的確保と育成」という4つの柱があり、移譲を含めた経営環境の変化や激化する競争の中にあっても、自律した法人として高齢者や障がい者等の福祉の向上に向けて、積極的にサービスを展開することを掲げるとともに、組織のあり方や運営方法、収支改善に向けた取り組みや人材育成・確保策などについて、具体的な目標を設定しています。

平成28年度からは、計画の推進や進行管理、総合調整や評価を行うことを目的として「経営改革会議」を設置し、「機能強化に対応できる組織・運営体制の確立」と「財務基盤の確立と自律的経営に向けた職員の意識改革」を着実に推進したいと考えています。

4 未来へ

県立障がい者施設の移譲は、事業団の経営にとって大きな転換点であると同時に、新たな歴史への一步を踏み出すチャンスでもあります。

これからの施設経営には、持続的で安定した経営基盤を確立することはもちろん必要ですが、それとともに、支援を必要としている多くの人たちの福祉ニーズやセーフティネット機能に応えられる事業体となることが求められています。



利用者と花壇（あさひ寮）



食事会（ワークショップ明星園）



桜の下で（吹浦荘）

そのためにも、事業団として、様々な状況の変化に柔軟に対応できるだけの組織力と専門性を備えるとともに、新たな福祉ニーズに挑戦する気持ちと主体性を確立しておく必要があります。

役職員一丸となって、機能強化に対応できる組織・運営体制を確立し、財務基盤の確立と自律的経営に向けた職員の意識改革を進めながら、当事業団の強みを活かした事業展開とサービスの向上に努めていきたいと考えています。

山形県社会福祉事業団の人材育成

「ひと 未来 輝いて」。この願いのもと、私たちは日々、専門性の向上に努めていますが、そのための人材育成のねらいと体系について、当事業団の研修プログラムの企画・運営を行っている事務局企画調整課長に聞きました。

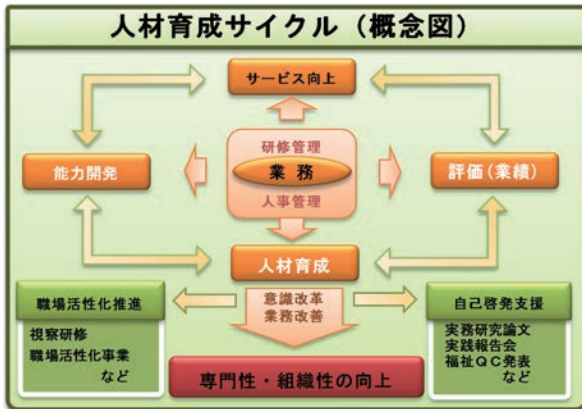
➔ はじめに、人材育成プログラムの概要を教えてください。

当事業団は創立から50年余を数え、また山形県内において様々な福祉サービスを提供しておりますが、それらを支えているのは、1,200名余りの職員一人ひとりです。まさに人材は「人財」であり、利用者のサービスの質の向上、権利擁護の推進は一人一人の職員によって支えられており、人材育成は大きな柱と言えます。

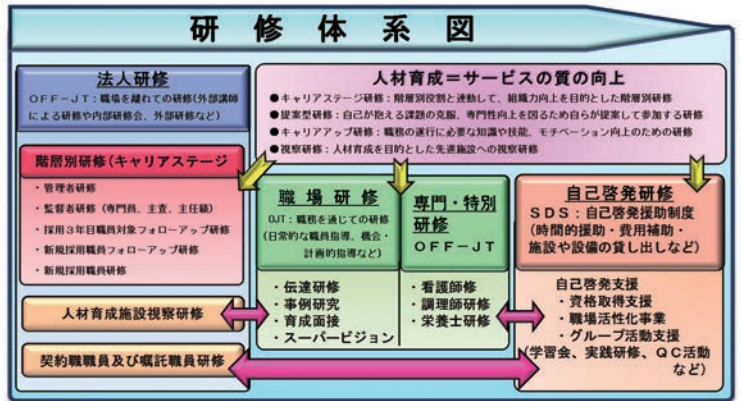
しかし、人材育成（研修）はそれだけであるのではなく、日頃の利用者支援・業務と連動する中で初めて意味を成すものであって、その事を示しているのが、図1「人材育成サイクル」となり、また研修の種類・関係性を示したものが図2「研修体系図」になります。



採用3年目職員フォローアップ研修



(図1：人材育成サイクル)



(図2：研修体系図)

➔ 具体的に、どのような研修がありますか？

例えば、職員として入社すると最初に新規採用職員研修がありますが、その後はフォローアップ研修などがあり、ステップアップしていけるよう各段階に応じた研修を準備しています。また、各事業所の職場研修や自己啓発研修などの仕組みがあり、縦にも横にも広がりをもてるように体系化しています。

しかし、図1でも示したとおり、研修は日々の利用者支援と連動して初めて意味があるものであり、今後も研修内容を吟味しながら、推進していきたいと思えます。

➔ さいごに、今後の研修の在り方について教えてください。

当事業団は、平成28年度から県立障がい者6施設が移譲されることを契機に、強度行動障がい者や難病等医療的ケアを伴う利用者の受け入れ、それに伴う大幅な施設機能の見直しなど新たな事業展開の時代へと入っていきますが、これまで以上に利用者のニーズに耳を傾けながら、利用者に寄り添って歩んでいきたいと考えています。

そして、その事業目標、経営理念を具現化するのが、職員一人ひとりの専門性に基づいた働きによるものであり、今後も職員がスキルアップを目指していけるよう多くの研修の機会を設けるとともに、積極的に活用してもらえようような仕組み作りに努めていきたいと思えます。

日本財団2015年度福祉車両助成事業による 助成決定について

この度、日本財団の福祉車両助成事業により福祉車両購入の助成をしていただき、多機能型事業所つばさ（サポートセンターあずさ／米沢市）に利用者の送迎用車両を配備することができました。

平成28年2月12日（金）に納車されましたが、当日は、利用者だけでなく職員もワクワクし、真新しい車が届くと、皆、大歓声。早速、近くの上杉神社へ行き、安全祈願のご祈祷をしていただきました。

多機能型事業所つばさ（生活介護・就労継続支援B型）では、利用者の多くが高齢となり、また身体に障がいのある方も利用されていることに加えて、冬は雪深い地域であるため、送迎に対するニーズが高く、これからは新しい送迎車で快適に通っていただくことができます。



神事を無事終え、上杉神社でのご祈祷（左）。その後、記念撮影を行いました（右）。

障がい者チャレンジフェスタ2015

様々な分野の活動にチャレンジする障がいのある方々の生産品や芸術作品等を紹介し、障がいに対する理解と認識を深め、社会参加の推進を目指すことを目的に「障がい者チャレンジフェスタ2015（ワークフェスタ、アートフェスタ）」を開催しました。

この2つのイベントは、山形県総合社会福祉基金（紅花ふれあい基金）を活用するとともに、平成28年10月に山形県で開催される第36回全国障害者技能競技大会（全国アビリンピック）の応援を兼ねて実施しました。平成27年7月17日、「アビリンピックやまがた2015」と同時開催をしたワークフェスタ（会場：山形ビッグウイング）では、県内の福祉作業所29事業所から出店があり、選手や選手のご家族、関係者の皆様など、多くの方々に来場していただき、生産品の展示・販売、乗馬体験などで楽しんでいただくことができました。

また、平成27年11月23日に開催したアートフェスタ（会場：ビッグウイング）では、山形県に在住している障がい福祉サービスを利用している方及び就労をしている障がいのある方に、芸術作品などの応募を募ったところ、139点の応募があり、来場していただいた多くの方に芸術の秋を堪能していただきました。

山形県社会福祉事業団は、これからも全国障害者技能競技大会（全国アビリンピック）を応援します。



アートフェスタでの展示作品

各施設の取り組み

養護老人ホーム 明鏡荘

芸能祭への参加

県内の老人ホームが一堂に会し、思い思いの劇や踊り、歌謡などを披露しあう芸能祭が、由良温泉「ホテル八乙女」で行われました。明鏡荘からは入所者の皆さんの意向を踏まえ、恒例となっている創作劇を披露することになりました。入所者の皆さんに参加を募ったところ8名の方が参加することになりました。参加する皆さんで話し合い、民話「大きなかぶ」を現代版にアレンジし、若い方からお年寄りの方まで共感して頂ける構成にしました。

約2ヶ月前から練習を始めましたが、小道具を作ったり衣装を揃えたりと、次第に完成に近づき盛り上がりを見せる中で、皆の気持ちが一つになっていく様子をひしひしと感じました。完成披露として、明鏡荘の利用者の方々や職員に観劇してもらった時は、皆から笑いや大きな拍手などをもらい、役を演じた皆さんは、この上ない自信を得たようです。



～大きなかぶを引っっこ抜け！～

そして本番。150名を超えるお客様を前に、緊張こそあったものの、練習を超える完璧な演技を披露し、皆さんから大きな拍手をいただき、特別賞『名演技が見どころだったでしょう』を頂きました。

演技を終えた後、ホテルでは温泉に浸かり、ごちそうをいただき皆さん大満足でした。来年はどんな出し物にするか、今から楽しみです。

(明鏡荘長)

障害者支援施設 梓園

第17回梓園社会福祉セミナーを開催して

オンブズマン制度の導入をきっかけに、平成11年より始まった梓園社会福祉セミナーは、今年度で17回目となりました。これまで、地域生活に焦点を当てた内容や障害者自立支援法の制度に関すること、東日本大震災時の障害者支援、当事者の方の経験や活動についての講話など多岐にわたる内容で、広く一般市民にも呼びかけて開催してきました。

今回は、高次脳機能障害により社会生活や家庭生活に何らかの支障をきたしている方が増加傾向にある現状を受け、『高次脳機能障害を考える』をテーマに、国立病院機構山形病院リハビリ科医長 豊岡志保先生、障がい者支援施設「更生園」 鶴岡弘将先生を講師としてお招きし開催しました。講演では、症状・支援方法・支援の展開など幅広いお話をいただきましたが、豊岡先生からは、外見からは分かりにくい障がい故、家族や周囲の人が理解しにくいばかりでなく、本人さえ気づきにくい特徴もあり、家庭や地域での生活に困難をきたすことがあるとの説明がありました。

鶴岡先生からは、支援として、生活のリズムを整えること、自らの障がいに気づくこと、社会参加するための準備することなどを目標に、グループワークを中心に体験を話し合うなど、社会生活力を高めるための支援を実践されているとのことのお話がありました。

高次脳機能障害者は、一人ひとり症状が異なるため、一人ひとりに寄り添い支援をしていかなければならないと強く感じるとともに、梓園としても、今後、高次脳機能障害者の方への支援を展覧していけるよう準備をしていかなければなりません。

(梓園 理学療法士)



梓園社会福祉セミナー風景
～高次脳機能障害を考える～

救護施設 山形県立泉荘

語り合い、学び合いのために

泉荘は設立時から地域に受け入れられ、育てられ、近隣3施設と共に「今泉福祉村」と称されてきました。これまで、その感謝の気持ちを込め、福祉情報の発信源となるべく「地域と福祉」、「地域の福祉力を高める」、「差別や人権擁護」、「生活困窮者自立支援法」等をテーマとして、福祉セミナーを開催してきました。

第14回を迎えた平成27年度は、11月9日にNPO法人再非行防止サポートセンター愛知理事長の高坂朝人氏を講師に招き「被支援者から支援者となり、大切にしていること～再非行を減らし、笑顔を増やしたい～」の演題で開催されました。

学校の先生に反抗したことを「すごい」と同世代から認められたことから始まった非行への道。窃盗・暴走族・暴力団準構成員へと逃げ、非行の道しかないと思っていたが、結婚し父親になるのを機に変わる覚悟を決めた。失敗を繰り返しながら、介護施設の仕事に出会い、人に癒されるようになった。格好良く見せようとか、要らない気を遣わずに働けた。被支援者から支援者になって思うことは、非行少年は正しい言葉を聞きたいのではなく、信頼できる人の言葉を聞きたいということ。自分自身を信じて変わって欲しい。自分と未来は変えられる。でも一人では変えられない。このようなお話がありました。

立場の違いや様々な生活のしづらさをそれぞれが抱えながら暮らしている中で、福祉現場で働く自分たちに何ができるだろうか。様々なテーマで色々な人と語り合い学び合える場を持ち続けることだと信じ、セミナーを継続していきたいと思います。（山形県立泉荘長）



講師の高坂朝人氏

多機能型事業所 ワークショップ明星園

開所20周年記念式典

明星園は昭和41年に身体障がい者入所授産施設として開所しましたが、建物の老朽化が進んだことから、平成7年9月にワークショップ明星園として建替えられました。それから20年となり、自治会と一緒に昨年9月1日に20周年記念式典を行いました。その準備の中で開所当時のアルバムが見つかり、開所時に植えた庭先の樹木が大きくなり、20年経ったことが実感できる写真もありました。

明星園は諸制度の改革に合わせて事業展開を進め、現在は就労継続支援B型、生活介護、地域生活支援のため共同生活事業所（グループホーム／4箇所）を運営しておりますが、平成27年度で指定管理者制度が終了することに伴い、今年度の4月からは事業団に移譲されました。今年度からの新しい実行計画に基づき、リハビリ機能の強化、在宅支援機能の強化を進めて参りますので、今後とも変わらぬご支援をお願いいたします。

（ワークショップ明星園長）



桜の咲く頃に……

サポートセンターあおぞら

日々是好日



花壇作り

当センターは酒田市新橋にあり、相談支援事業所あおぞら、吹浦荘共同生活事業所（遊佐・酒田）、多機能型事業所ふれんず（生活介護・就労移行支援・就労継続B型）、庄内障

害者就業・生活支援センターかでのの、4事業を通じて主に地域で生活する障がいのある方々の支援を行っています。

相談支援事業所あおぞらでは、障がいのことや福祉サービス利用のこと、生活全般の問題や悩み事などの相談を受けておりますので、身近な相談窓口としてどうぞお気軽にご活用ください。

また、日中活動の場である「ふれんず」では、日々、利用者の皆さんが笑顔で軽作業に取り組んでいます。また、ミュージックケアや花壇作りなど、様々な創作的活動も楽しんでいます。

庄内における障がい者福祉の拠点として、地域の皆様からご利用頂ければありがたいと考えていますので、どうぞお気軽にお越しください。

（サポートセンターあおぞら所長）

【癒しの空間】

昭和54年開設、建物としては古さを感じるが、内部は手入れが行き届いており、その古さが返って落ち着きとして感じられる。

支配人は語る。「確かに、寿海荘は古いかもしれない。しかし、おもてなしの精神ではどこにも引けを取らない自負がある」と。

あつみ温泉の高台に位置し、山ふところに抱かれた寿海荘には、ゆったりと静かな時間が流れている。



▲夕食時、あつみ舞踊友好会の皆様による「唄と舞踊の会」が開催され、和やかな雰囲気の中で楽しいひと時が過ぎていった。



●エレベーター設置についてのお知らせ

平成28年3月に、待望のエレベーターが設置されました。階段を上り下りすることなく、食事や温泉を楽しんでいただけます。皆様のお越しを、スタッフ一同心よりお待ち申し上げております。



寿海荘を巡る

山形県庄内地方に、開湯から千年以上の歴史を持つ温泉（あつみ）温泉がある。その温泉街に、寿海荘（じゅかいそう）があり、これまで多くの方々に迎えてきた。昭和五十四年の開設以来、多くの方々に魅了してきた寿海荘を訪ねた。

【旬の食材を取り入れた料理】

海と山に囲まれた庄内地方には、多種多様な海の幸・山の幸がふれている。

寿海荘では、四季折々の旬の食材を取り入れて、季節感あふれる手作り料理を、真心込めて提供している。



▲どの季節に行っても、庄内の魚が出货してくれる。



▲事前にお申込みで、庄内地区の方々がご宿泊の場合、概ね5名様から送迎も可能。

掛け流しの温泉。泉質はナトリウム・カルシウム・塩化物・硫酸塩を含み、慢性婦人病・神経痛・関節痛・疲労回復等に効果がある。

掛け流しの温泉でゆったりのおんびり疲れを癒す
手作り料理にきっと満足！

山形県福祉休養ホーム

寿海荘



60歳以上の方・母子(寡婦)・
父子・身体障がい者等の方

1泊2食付き **5,350円**(税込)

【一般の方6,280円(税込)】

〒999-7204 山形県鶴岡市湯温海字湯之里88-1

お問い合わせ(ご予約) **0235-43-4173**

●営業時間(宿泊)のお知らせ●

皆様の声にお答えし、営業時間(宿泊)を変更いたしました。これからもよろしく願いいたします。

変更前 16:00~10:00

変更後 15:00~10:00